



# 六 郷 ろくごう

六郷小学校

H30. 11. 2

No. 23

## 子ども達の大きな成長を感じて

10月25日(木)は、郡内すべての教科の研究会が各会場校で行われました。六郷小学校と美郷中学校は、算数・数学の会場校として授業を公開しました。六郷小では、4年松組と6年生の授業を見ていただきました。この研究会は、教科ごとに会場校が決まり、2年間の研究を経て授業を公開するものです。

### 4年松組の授業

4年生は、大曲小学校の石井先生が松組の子ども達と一緒に授業をされました。このような形になったのは、3年前、大曲小学校の子ども達を借りて大学の先生や他校の先生が授業を公開する全国大会が行われ、その成果をここでも生かしたいという算数・数学研究会の思いがあったからです。石井先生は算数・数学研究会の会員でもあり、若手のホープです。これまでも何度か本校を訪問し、授業を行ってきました。

### 6年生の授業

6年生は、六郷小の特色でもある2C3Tの授業を公開しました。2つのクラスを3つに分けて行う授業です。

- 「じっくりコース」 具体物を使ったり生活と関連させたりしながら、じっくり問題に取り組むコース
- 「しっかりコース」 子ども達の実態に合わせて、取り組み方を柔軟に行うコース
- 「どんどんコース」 さらに深く学び、発展的な課題にも取り組ませるコース

じっくりコースは佐々木、しっかりコースは黒澤、どんどんコースは伊藤が担当しました。各コースは子ども達が自分で選びます。自分の学ぶ方に合うコースを選択します。



(6年生の授業の様子)

## 絶賛された授業と子ども達

私(校長)は理科研究会の会長のため、六郷小に残ることができませんでした。次の日に、学校に残っていた職員から前日の様子を聞くと、授業後の研究協議では、とにかく誉められることが多く、絶賛されたとのことでした。算数・数学の会長に電話をすると、「4年生も6年生も、どちらもすばらしい授業であった。4年生は意欲的で、授業者の石井先生が担任であるように感じるくらい雰囲気がよかった。6年生はどのコースも子ども達一人ひとりが授業に参加していて、本当にすばしかった。以前、六郷小学校に勤務していたが、子ども達も大きく成長しており、校内も整備されていて、環境もすばしかった。」とってくださいました。

これまで六郷小の研究に関わってくださった中川小学校の高橋校長先生からも、「6年生は、自分で学び方を選ぶコース別ではあったが、どのコースも主体的に発表したり、話し合ったりしていて、全員が参加できていた。4年生も反応があって、本当に楽しそうだった。」とってくださいました。

(4年生の授業の様子)



算数・数学研究会の元会長である、佐藤先生から次のような感想をいただきました。

この度の大曲仙北算数・数学教育研究会美郷大会に招待され、六郷小学校の授業を拝見させていただきました。本当にありがとうございました。子ども達の真剣な、そして意欲的な顔の数々に出会い、新鮮かつ満たされた気分一杯です。学校経営の確かさを感じてきました。

4年生、石井先生の授業では、めあてまでもっていく流れがとても分かりやすく、子ども達の反応も素晴らしかったです。そして、おそらく現学級担任の先生の授業方法であろうかと思われませんが、めあてを子ども達自身の言葉でつくる経験をしているのに驚きました。また、本時のめあてに行く前の課題提示では、子どもから「分かった」という声が何度も聞かれ、課題の意味を子ども達自身が把握している雰囲気が出されておりました。まさに、つくる算数を行っていると感じました。(中略)

6年生、2C3Tについて

佐々木先生の授業では、課題解決において、3通りの方法が出ました。グループの代表として佐々木君が前に出て、その意味を説明しましたが、理解している子どもが最初一人くらいで、佐々木君が「悔しい、もう1回説明させて」と話す場面がありました。おそらく普段から、教室における討議の自由性みたいな雰囲気を常につくっている佐々木先生の姿が見られました。(中略)

数直線のグループでは、一人ひとりが考えた意見を発表して終わるのではなく、数直線にした意味だとか、どうしてそういう考えになるのか3人で追究していました。「学び合い」は既知のことを話すだけでは発表会で終わってしまいますが、そこから未知のもの、新しい事実が生まれてきたときに、初めて「学び合い」のよさが生まれてきます。彼女たち3人組は、その既習の知識を生かしつつ、新しい事実にとどり着いた貴重な体験をしたのではないかと思います。

黒澤先生の授業は最後の方を拝見しました。ちょうどふり返りの場面で、発言する子ども達の内容は、算数の授業に触れた内容となっていました。それも「単位時間当たり」などの言葉がぼんぼんと出て、算数用語を子ども達自身のフィルターを通して使える言葉になっているのが分かりました。さらにジャンプ問題に取り組み、先生から採点してもらおうと嬉しい顔をして、次の問題に取り組む児童の姿が見られました。あの姿を見ていると、いかに子ども達が算数を好きで楽しみにしているかが分かりました。

伊藤先生の授業は、本当に最後のところを拝見しました。どんどんコースとあるように、まさに、これでもかこれでもかと問題を解いている子どもの姿を目のあたりにしました。もっと解きたい、そういう意欲が伝わってくる子ども達でした。(後略)



## 「主体性、つながり、自分」を生かした授業

いろいろな方々の感想をお聞きして、今は本当にうれしい気持ちでいっぱいです。それは、一つ目として、子ども達の活躍ぶりを誉めてもらえたからです。昨年度から「主体性、つながり、自分」というキーワードを掲げ、いろいろな新しいことに挑戦してきました。子ども達は、それにしっかり応えるかのように成長してきたと感じてはいましたが、今回、客観的な立場の方々から認めていただいたということで、その成長が事実であることを証明できたように思います。

二つ目としては、六郷小学校の授業の取組を認めてもらえてことです。この二年間、職員全員で研修を行い、「六郷小学校の授業の形」を提案することができました。これまで、何度も研究授業を行い、話し合いを繰り返しながら研修したことで、「授業に統一感がある。」「同歩調で算数の研究に取り組んでいる。」という言葉がいただくことができました。

この成果は、私たち職員にとっては大きな自信となりました。今の方向性を維持しながら、子ども達と一緒に、さらに素晴らしい六郷小学校にしていきたいと思えます。